

4年風組

音楽「日本の音楽を楽しもう」の学習で、和太鼓を叩いたことから、太鼓の音や響きに魅力を感じ始めた子どもたち。そこで「和歌山おどり」の演目である「黒潮太鼓」を保存しようと結成された黒潮躍虎太鼓の代表である宇治田さんに来て頂き、太鼓の叩き方や太鼓の魅力を話してもらいました。その中で「夏祭りで太鼓を叩いてみたらどうか？」という提案があったことをきっかけに、「総合で太鼓に取り組んでみよう。」ということになりました。太鼓の練習に加え、どの太鼓を使うか、数がない分はどうするかなどの問題を解決しながら夏祭りに向けて準備を進めていきました。地域に住む、竹とんぼ名人や民生委員の方にも協力して頂き、「宮太鼓」「締太鼓」だけでなく手作りの「竹太鼓」や「タイヤ太鼓」も用意することができました。

そして7月23日、有功東夏まつりで4風太鼓を披露しました。リハーサルでは、テンポが速くなってしまったり緊張した様子でしたが、本番では大勢の人の中、落ち着いて太鼓を叩くことができました。子どもたちは一生懸命がんばったこと、友達と力を合わせて太鼓を叩いたことに達成感や充実感を感じることができたと思います。



4年光組

4月14日に起こった熊本地震。3か月以上たった今も小さな揺れが続くなど現地の人だけでなく日本中の人を不安にさせています。子どもたちは、震災直後から新聞やニュースを見て、熊本の現状に関する情報を集めていきました。子どもたちは、自分の知っていることを交流しあう中で、地震の脅威や地震が起こった後の苦労、被災者の思いについて考えを深めていきました。そんな中、自分たちの住む地区でも大雨による土砂崩れが起き、災害による被害は決して他人事ではないと考えるようになりました。そこで、国語「新聞を作ろう」の学習と関連させて、防災新聞を作るために、もう一度、自分たちが関心をもっていることを中心に調べ学習に取り組みました。「熊本地震」「防災グッズ」「学校の備蓄品」などをキーワードにインターネットや本を調べる子、インタビューしたり、実際に体育館に置いてある備蓄品を見に行ったりする子、それぞれの調べ方で災害への知識を蓄えていきました。「地震に備えて、ちゃんと防災グッズを揃えたい。」「大地震が起こった時の対策が必要だな。」と災害への意識も高まってきた子どもたちの様子が印象的でした。

